

広陵町教育委員会だより

令和6年度 2月号

2月7日発行

広陵町教育委員会

北葛城郡広陵町南郷583-1

TEL0745-55-1001 文責・編集 植村



うち靡(なび)く 春の柳と我がやどの 梅の花とを いかにか分けむ

巻5-826 史氏大原(しじの おおはら)

しなやかになびく春の柳と我が庭に咲いた梅の花。どちらも美しい。甲乙つけがたい美しさですね

子どもの自己肯定感を高めるには!

2月2日は節分、そして3日は立春と暦の上では春となりましたが、まだまだ厳しい寒さが続いています。しかしながら、陽光は心なしかきらきら輝いて感じられ、春の足音がすぐそばまで近づいて来ているようです。

さて、今年度も残すところ2か月足らずとなりました。この時期子どもたちにとっては、一年間に培った遊びや学び、学習のまとめに取り組む時期となってきました。特に中学3年生にとっては、人生の大きな節目である高校入試が本番を迎えています。これまでの地道な努力の成果が発揮されるよう精一杯がんばってほしいものです。また、年長児や小学6年生においては、保育・学習とともに卒園・卒業に向けた思い出づくりなどの取組も進められています。

学校・園においてもこの時期、教職員が一年間を振り返り、今年度の教育活動の成果や課題を明らかにし、総括する中で次年度に向けた準備が進められています。子どもたちにとって、新たな年度でも楽しくてワクワクドキドキするような充実した学校・園生活を送ってもらえるよう教育委員会も学校・園の応援団として、先生方とともに日々努力を重ねていきたいと思えます。

ところで、以前、教育関係の講演会で、子どもの自己肯定感を高めることで、いじめの加害者を作らないという内容の講演を聞いたことがあります。

講演された方は、親子関係のアドバイザー・翻訳家の森かほりさんで、「いじめの加害者を作らない子育て」というタイトルで話をされました。森さんが子育てをしている中で、子どもとどのように関わり、寄り添ってきたか、またどのような声かけをしながら自己肯定感を高めるための接し方をしてきたかを具体的な例を示しながら、分かりやすくお話をされました。そのときのメモを参考に子育てのアドバイスを書いてみたいと思えます。

1 自己肯定感って?

自己肯定感とは、「自分は生きる価値がある、誰かに必要とされている」と、自らの価値や存在意義を肯定できる感情で、ありのままの自分を受け入れること

自己肯定感の高い子どもは、「何事にもチャレンジする、達成感・満足感がある、自分は自分という思いがあり人と比較をしない考え」がある。それに比べ低い子どもは、「どうせ何をやってもだめという無力感をもっている、人の目や意見が気になる、ストレスが常にある」といった違いがあり、特に自



己肯定感の低い子どもで攻撃的な子どもが「いじめる側」に回ってしまう。

2 自己肯定感を高める接し方

聴き方の悪い例……ながら聴き、「なんで?」と問い返す、「でも」と相手を否定する、アドバイスをしたがる、あれこれ質問する。

聴き方の良い例(傾聴と共感)……全身を相手に向けて聴く、相づちを打つ、言ったことを繰り返す、「～ならいいのにね」と共感する、じっと待つ。

スキンシップを心がける……ハグ、ハイタッチ、グータッチ、「お疲れ様」と言いながら肩たたきやマッサージを!

ざっくりよりじっくりほめる……ほめるときはざっくりほめるのではなく、見たま



3 自己肯定感を下げない接し方

非難、比較、決めつけ、命令、否定、脅しは絶対しない!言うことを聞かないおまえは悪い子だと決して決めつけない!イラッときたら6秒待つ!

「あなた」言葉でなく、「わたし」言葉で話す。

以上のようなことを意識して、子どもと接すると自己肯定感が高まり「いじめの加害者を作らない子ども」に育つと熱弁されていました。子育ての参考にさせていただいたら幸いです。

教育委員会の取組

『二十歳のつどい』を開催しました!

1月13日(月)の成人の日に、広陵中央公民館かぐや姫ホールで令和7年広陵町「二十歳のつどい」を開催しました。

新型コロナウイルス感染症が流行したときから、感染予防対策として、午前・午後の二部制で実施していました。感染状況も落ち着き、一部に戻すという案もあったことから、参加者へのアンケートをした結果、これまでと同様、中学校区ごとで実施したいという要望が多かったため、今回も二部制での実施となりました。午前に真美ヶ丘中学校区、午後には広陵中学校区での式典となりました。

オープニングイベントとして広陵金明太鼓の皆さんが、二十歳の皆さんに門出を祝して、勇壮かつリズムカルな「打てや囃(はや)さん」という曲の演奏で二十歳のお祝いへの花を添えていただきました。

式の進行は、一部が実行委員の世古さんと米田さん、二部は松田さんと村上さんが司会者として緊張しながらも、スムーズに進めてくれました。

山村町長は式辞の中で、「今年、広陵町は町制70周年を迎えます。次の世代に誇りをもって引き継げるまちづくり推進 裏面へ



のため、二十歳の皆さんにもぜひ参画してほしい。あなたが選択し、決断し、挑戦したことがあなたの人生を形作っていきます。どうか、一度きりの人生を最高のものにしてください。」と熱いメッセージを贈られました。



教育長の私はお祝いの言葉で、「皆さんが生きている『いま』はかけがえのないものです。一瞬一瞬に価値があり、それが未来に続いていきます。『一番苦勞した人が、一番感動し、得をする。』という言葉があります。それは、前向きな生き方を支える究極の考えかもしれませんが、これからの人生、常に『前向き』という心の姿勢を持ち続け、喜びの多い人生を築いてください。」というメッセージを贈りました。

二十歳の誓いでは、一部が平井さんから、「同調圧力が強く、出る杭は打たれる日本社会にあって、いろいろなことを経験し、いろいろな考え方を学び、自分なりにかみ砕いて吸収することが大切で、挑戦の足を止めずに社会の荒波に立ち向かう私たちの闘志を、『二十歳の誓い』とします。」という熱い想いを話してくれました。

二部の古澤さんからは、「現代社会は、多くの課題や困難をかかえているが、自身を成長させると同時に、誰かの役に立てる存在でありたい。感謝の心を忘れず、誠実に生きていくこと、そして、どのような困難があっても、希望を胸に、支え合いながら前に進んでいくことを約束します。」と新たな誓いを述べられました。

その後、小学校区ごとに分かれてのアルバムの記念撮影、そしてアトラクションとして、実行委員が取材・編集した恩師によるビデオメッセージが流れ、それぞれの先生方のメッセージに一喜一憂していました。



主催者として、二十歳になった皆さんに、人生の節目としてお祝いできたことは何よりもうれしいことでした。

市町村対抗子ども駅伝大会での優勝を！

第20回市町村対抗子ども駅伝大会が、3月8日(土)に檀原運動公園で開催されます。1月11日(土)に大会に出場する子どもたちとその保護者の皆さんへの事前説明会を中央体育館選手室で実施し、今後の練習日程などを伝えるとともに子どもたちの自己紹介及び大会出場に向けての意気込みを語ってもらいました。

その後、大会に向けての練習会が1月中旬から毎週土曜日の午前中に馬見丘陵公園大テント周辺と散策道を中心に行われています。初回の練習会は、体育館東側駐車場と高田川堤防の道路で行われました。私もこれまで子ども駅伝に関わってきた関係で、これまで2回、練習会に顔を出しました。子どもたちは一人一人、自分の持っている力を精一杯出し切って走っている様子に自然に



高田川堤防での練習風景

大きな声が出て「ファイト、がんばれ、手をしっかり振って」など励ましと声援を送っていました。

スポーツ協会陸上部長で監督の竹嶋さんをはじめ、スポーツ協会やスポーツ推進委員等のコーチングスタッフの皆さんには毎週、ボランティアで参加してもらっていることに感謝しながら、3月8日の本番に向けて、子どもたちのがんばりに期待したいと思います。特に、これまでの成績で最も良かった昨年5位の成績を上回る、優勝を目指してほしいと思います。どうか町民の皆さんも広陵町の名誉をかけて走る子どもたちへの応援をよろしくお願いいたします。



今年の立春はなぜ2月3日？

皆さん、今年の立春はなぜ2月3日なのか？2月3日と言えば節分の日ではないの？と思われたのではないのでしょうか。私もその一人です。そこで、その疑問を解決しようと調べてみました。

地球が、太陽の周りを公転する周期が365日と5時間48分という半端な長さになっていることが関係しているのです。国立天文台が計算する立春の瞬間は、4年に1回うるう年が入ることから従来は2月4日の未明から夜の間を行ったりきたりしていました。仮に地球の公転周期が「365日と6時間ちょうど」であれば、立春はずっと2月4日であった可能性があります。

しかし、実際には「365日と5時間48分」のため、4年単位で見ると立春の時刻は少しずつ前倒しになり、4年前の2021年に、12年ぶりに2月3日が立春となりました。来年から3年間は、立春はまた4日に戻りますが、しばらくは、うるう年の翌年は2月3日が立春、2日が節分になるということです。



詩のコーナー

ありがとうの深度

谷川 俊太郎

心ここにあらずで
ただ口だけ動かすありがとう
ただ筆だけ滑るありがとう
心得顔のありがとう



心の底からこんこんと
泉のように湧き出して
言葉にするのももどかしく
静かに溢れるありがとう

気持ちの深度はさまざまだが
ありがとうの一言に
ひとりひとりの心すら超えて
世界の微笑がひそんでる

